

梅若会定式能 平成 29 年 7 月 16 日(日)

能『^{よろぼうし}弱法師』盲目之舞

人のざん言によって父に勘当された俊徳丸。今は盲目となり弱法師と言われる乞食の身である。

一方、子を勘当した事を後悔する父は天王寺へ施行(善根のため人に物を施すこと)に行く。折しもそこに俊徳丸が杖をつき苦しみを訴えながらやって来ます。

天王寺の梅の香りは彼の心を癒してくれます。

—そもそも、花を始め草も木もすべては皆、仏の大慈悲の施しです—

彼は勧められた日想観(春分の日入り日。日没に浄土を観想する行)によって、かつて見た難波の風物が蘇り、心の中に光が観えるのでした。そして興奮のあまり、人に突き当たって倒れてしまいます。するとそれを見ていた周りの人々があざけ笑うのでした。

彼は再び現実の世界に引き戻されるのです。…

能「弱法師」 シテ(俊徳丸) 松山隆雄
ワキ(高安道俊) 工藤和哉

□小書き ^{もうもく}盲目之舞 ^{めくらづえ}盲杖をつきながら「中ノ舞」を舞います。

□見所・聞き所

- ・盲目の弱法師がさまざまの景色を想像し、眺めます。
すると、一瞬、景色が観える場面があります。
- ・人に突き当たり倒れた時に放してしまった杖を手探りで拾おうとする場面。

他に 能 「籠太鼓」 シテ 梅若長左衛門 ワキ 殿田謙吉
能 「野守」 シテ 山中邊晶 ワキ 館田善博
仕舞 「班女」 鷹尾維教 「蟬丸」 井上和幸 「碇潜」 梅若紀彰
狂言 「伊文字」 野村万蔵